



情報通

2009.December 12月号
発行日：平成21年12月1日
発行：東京税理士会
情報システム委員会
題字：金井塚 清(豊島)

J-SaaSの現状と今後の展開(Ⅱ)

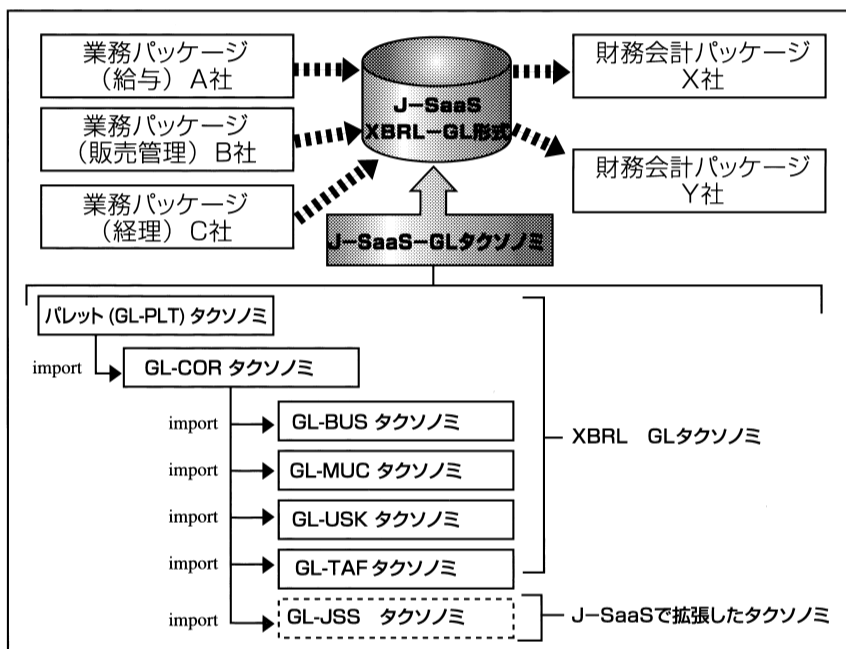
4. J-SaaSデータ連携(XBRL)の概要

4.1 異なるアプリベンダ間の業務パッケージと財務会計パッケージの連携

J-SaaSでは、様々なアプリベンダによる販売管理、給与計算、経理などの業務パッケージと財務会計パッケージが、世界標準のXBRL GL形式で連携できる仕組みを構築中です。

XBRL GL(Global Ledger)とは、事業活動に伴う仕訳データ(伝票データ等)を、異なるシステムやアプリケーション間でやり取りするための国際的な共通データ仕様のことです。その構造等の定義は、XBRL Internationalにおいて「XBRL GLタクソノミ」として規定されています。

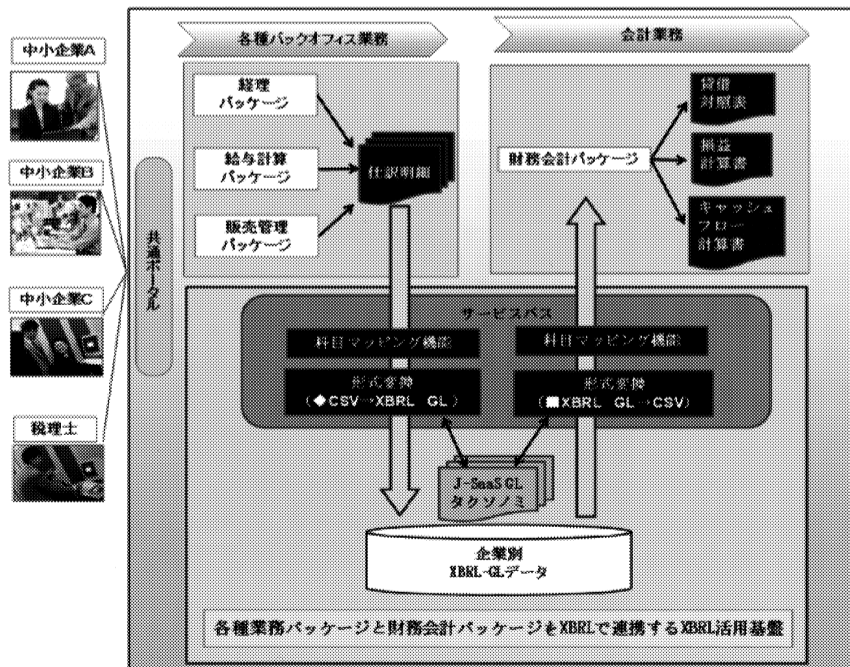
J-SaaSでは、この「XBRL GLタクソノミ」に、J-SaaS専用タクソノミを拡張した「J-SaaS-GLタクソノミ」の基本的な開発を2009年7月に終え、J-SaaS-GLタクソノミによるデータ連携機能として2010年3月にサービス提供を開始する予定です。



【図1: J-SaaS-GLタクソノミの利用による業務パッケージと財務会計パッケージとの連携概要図】

4.2 連携サービスの流れ

J-SaaS-GLタクソノミを利用した業務パッケージと財務会計パッケージとの連携サービスの概要を、以下に示します



【図2: XBRL活用基盤による連携サービス概要図】

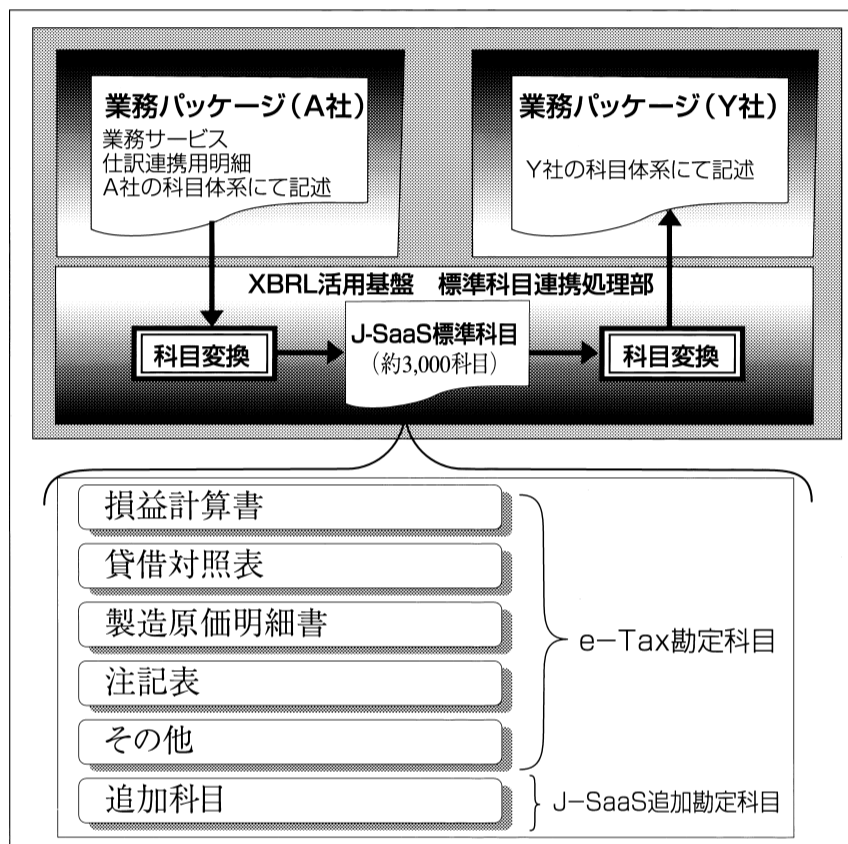
- ① 中小企業の利用者が各種業務パッケージを使用し、仕訳データ(伝票データ)を入力する。
- ② XBRL活用基盤サービスが仕訳データ(伝票データ)を、J-SaaS-GL形式に変換する。
- ③ J-SaaS-GL形式の仕訳データ(伝票データ)を、XBRL活用基盤サービスが財務会計パッケージと連携できる形式に変換する。
- ④ 中小企業の利用者または税理士が、財務会計パッケージを使用し、仕訳データ(伝票データ)を財務会計パッケージに取り込み、会計処理を行う。

※マッピング……科目割付の作業

4.3 J-SaaS標準科目

XBRL活用基盤では、異なる勘定科目体系を持つ業務パッケージと財務会計パッケージとの連携を行うため、共通の科目体系として、J-SaaS標準科目を提供しています。J-SaaS標準科目は、e-Taxで使用している勘定科目をベースに、J-SaaS専用の勘定科目を追加し、約3,000科目をJ-SaaS標準科目として定義しています。

仕訳明細の連携を行う場合は、下図に示すように標準科目への変換を行い、異なる勘定科目体系を持つ業務パッケージと財務会計パッケージとの連携を実現します。



【図3: XBRL活用基盤における標準科目による連携処理概要図】

終わりに

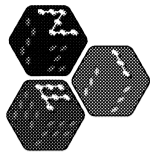
J-SaaSの現状と今後の展開について3回にわたり見てきました。実際の利用という面では、目下のところ提供されるサービスのタイプにクライアント認証型もありGoogleでイメージされるクラウドコンピューティング型のいわゆるSaaSとは異なる仕組みもありますが利便性の向上という点では今後の展開に期待しましょう。

IT戦略本部の今年のキャッチフレーズは、i-Japan戦略2015~国民主役の「デジタル安心・活力社会」の実現を目指して~です。ですからより利用者視点に立った誰にも使いやすいサービスが提供されることでしょう。

一方、私たち税理士としても法人税の電子申告で使用するXBRLの機能がJ-SaaSの中でも活用されることや、税理士向けのサービスにアクセスする際に日税連ICカードを利用することになることなどは大いに興味を引くところです。やはり電子申告を積極的に推進していくことが今後の税理士事務所とその関与先の業務効率向上に役立つのだということを強く意識させられた取材でした。ご協力をいただきました関係者の方に篤くお礼申し上げます。

法定調書は、e-Taxで提出を!

法定調書は、e-Tax(国税電子申告・納税システム)を利用した提出や、データを記録した光ディスク等(光ディスク、磁気テープ又は磁気ディスクをいいます。)での提出もできます。まずは法定調書の提出から電子申告への第一歩を。



税理士情報フォーラム2009を終えて

情報システム委員会 副委員長 細田 俊男

12月11日、東京税理士会館本館で、雨の中「税理士情報フォーラム2009」を開催いたしました。天候が悪いにもかかわらず200名以上の会員の参加があり、成功裏に終了することが出来ました。

メイン会場「パソコン研究室」のブースでは、様々なテーマに沿った研修が行われ、熱心に聞き入る会員が目立ちました。

地下では2つのブースを設置いたしました。「TAINS」の活用方法に関するブースは、過去に同様の研修会の開催回数が多いにもかかわらず、部屋を埋め尽くす程の会員が集まり、相変わらずの人気の高さを感じました。地下でもう一つ行われたのが、富士ゼロックスの「DocuWorks」に関する研修でした。「DocuWorks (ドキュワークス)」は、異なるアプリケーションで作成された電子データを統一したフォーマット形式で管理検索できるソフトで、ペーパーレスに最適で、しかも事務所管理に大変効果的なものです。この研修が予想以上の会員を集め研修室があふれる程になったため、急遽、開催回数を増やして対応いたしました。会員の関心の高さが窺え、大変に驚きました。



「パソコン研究室」は終日、多くの会員の関心を集めた。

他には「パソコン何でも相談室」を終日設置し、個別相談を希望する会員に対応いたしました。個別相談のブースは前回のフォーラムでも設置しましたが、あまり活用されずに、相談者は2～3名に留まりました。しかし今年は、予想外に40名程度の会員が相談に訪れ、相談員はまさに「てんやわんや」で大変な状況になりました。私自身も相談に対応いたしました。何を相談されるか解らない状態で、さらに相談者一人当たりに対応できる時間も少なくなり、大変苦労いたしました。

特に多かった相談は、「オフコンからパソコンに切り替えたいがデータの変換はどうすれば良いのか」という内容で、やはり

事務所のコスト削減が焦点でした。他に気になった相談は、「事務所を最近開業したが、パソコンで業務を行うのにどのようなアプリケーションをそろえればよいのか」と言うことでした。会員の相談内容にもパソコンでの業務に寄せる期待がにじみ出て、「絶対にパソコンを自分の物にするんだ」という意気込みが強く感じられました。



個別相談には順番を待つ会員の姿も。

最後の閉会式では抽選会が行われ、全てのブースを見学した会員を対象に「業務改善ツール抽選会」を開催し先述の「DocuWorks」等、事務所のペーパーレスと電子化を後押しする魅力的な製品が来場者に提供されました。

これから税理士業務もさらにIT化し、複雑になっていきます。電子申告もその一部ですが、情報システム委員会では、会員のIT化を目指し、電子申告の普及に力を注ぎ、この目的に沿ったフォーラムを今年も開催する予定です。是非ご参加いただきますようお願いいたします。



抽選会にも多くの会員が参加した。

あわやデータ消失!? Windows Live Syncで命拾い

情報システム委員会委員 豊島 正純 (荏原)

事務所に24時間、365日稼働しているパソコンがある。ここ半年くらい、そのパソコンの調子が悪いように思う。マウスで操作をしても重々しく、サクサクと動いてくれない。ファンのモーター音も重苦しく、いかにも疲れていて「もう、動けないよう」と訴えているようだ。とはいえ、わが事務所のパソコンの中では比較的若手で、年齢からいってもまだまだ働き盛りといったところだ。そんなに早く壊れることはないだろうと思っていたある日、「ピッ・・・」と音を発した次の瞬間、モニターが真っ黒になった。「あれ?変なウイルスにでも感染したか?」といやな予感がして、そのパソコンへ近づきパワーボタンを押す。・・・ウンともスンとも言わない。ウイルスどころではなく、パソコンが完全に故障してしまったようだ。ある平日の昼の事だった。

この事件が起きる1週間ほど前、ある情報システム委員の方から「Windows Live Sync」の話聞いていた。私も日頃から事務所データのバックアップには気をつけており、フリーソフトを使っ

て毎日の帰宅時にはデータのバックアップをとっていた。ただ、いくら毎日バックアップをとるといっても、編集した資料をその都度するわけではなく1日に1回毎だ。教えて頂いたWindows Live Syncというソフトはフォルダ内にあるファイルの追加・削除・編集を即座に検地して、自動的に同期するらしい。

「ふーん、そんなソフトがフリーであるのなら、試しにセッティングしてみようかなあ…」と、興味本位でセッティングした約1週間後の昼、前述のパソコン故障事件が起こった。即座に同期をとってくれるこのソフトのおかげで、午前中に済ませた仕事のデータを紛失することなく、故障による被害を最小限に抑えることができた。教えて頂いた委員の方には、大変感謝している。

今考えると、あのパソコンは私がお話聞いてきてWindows Live Syncをセッティングするまで壊れるのを待っていてくれたのかも知れない(勝手な解釈だが...)。壊れたパソコンの本体は修理のしようがなく、廃棄してしまったがモニターは現在、新しく購入したパソコンにつなぎ、マルチモニターとして利用している(マルチモニターも情報システム委員の方に勧められたのだ...)。これもまたナカナカ使い勝手がよい。やはり、様々なところから情報を得て実際にやってみる事は大切なのだと実感させられた。